

## 令和7年度 平井保育園事業計画

## 1. 概要

### ① 運営方針

- 東部地区の人口は減少傾向にありますが、近隣の大規模病院や商業施設、行政施設等で働く職員の子どもの入園申し込みが年々増加傾向にあります。また、入園希望者数も増加し、今年度も115%の受け入が見込まれます。今後も地域子育て支援センターと連携を図り、広報活動にも力を入れ、選ばれる園となるよう努めていきます。
- 職員採用については新卒者の確保ができていたものの、経験の浅い職員が多いため、チェックリストに基づいた研修、現場における指導を主任、副主任を中心に行います。また、中堅保育士が自分の役割を理解し、やりがいを持って働けるよう、組織内での役割を明確にし、育成していきます。
- 園庭環境に関しては、大型遊具を導入し安全に配慮して子どもたちが遊びこめる環境づくりに取り組みます。また、広い園庭を活用し地域の子育て家庭が安心して遊べるよう積極的に園庭開放を行っていきます。
- 近年増加している自然災害、また、南海トラフ地震発生確率が引き上げられたことを受け、作成している事業継続計画（BCP）の実行性を高めるための勉強会、また、インターネットを活用した模擬訓練を行い、大規模災害に備えていきます。災害対応に関する外部研修にも積極的に参加し、災害時における組織の一員として、職員の意識を高めていきます。
- 園舎が完成し4年が経ちます。壁紙の張替え工事、エアコン清掃に関しては、行政と協議し、実施する予定です。

②定 員 1 2 0 名 園児数 1 3 3 名

③事業日数 292日 (ほか休日保育70日)

④開園時間 平日 7:00～20:00 休日 8:00～18:00  
土曜日 7:00～20:00

⑤保育時間

|      |                              |
|------|------------------------------|
| 早朝保育 | 7 : 0 0 ~ 8 : 3 0            |
| 通常保育 | 8 : 3 0 ~ 1 8 : 0 0 【標準時間認定】 |
|      | 8 : 3 0 ~ 1 6 : 3 0 【短時間認定】  |
| 延長保育 | 1 8 : 0 0 ~ 2 0 : 0 0        |

⑥職員数 園長 1名、主任保育士 1名、副主任保育士 1名、  
看護師パート 1名（うちパート保育士1名）  
保育士 19名（うちパート保育士6名）  
子育て支援センター担当職員 3名（うちパート保育士2名）  
延長休日保育担当保育士 2名（うちパート保育士1名）

調理員 7 名（うちパート職員 5 名） 用務員 1 名（うちパート職員 1 名）  
嘱託医（松山市の指定による） 小児科医 1 名・歯科医 1 名

## 2. 保育運営

### ①保育理念

- 子どもは子ども同士認め合い、助け合い、励まし合い、学び合う子ども社会の中で成長することが望ましいと考えます。
- 私たちは、子どもの個性・人格を尊重し、自立を促し、日々の生活の中で家族とともにその成長・発達の援助を行います。

### ②保育方針

- 社会福祉法人白鳩会保育メソッド・一日の保育の流れを中心に、子どもたちが主体的に生き生きと生活・活動できる環境を整え、自己を十分発揮し人として『生きる力』を育む。
- 在園児および地域の子育て支援を行う。
- 愛着関係を確立させ、子どもとの継続的な信頼関係を築く。

### ③保育目標

乳児期の愛着関係を基盤とし、認知能力（記憶、計算、判断、決定、言語理解など）と非認知能力（意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性、思いやり、自己肯定感）を育む。

### ④クラス体制

|       |               |     |       |                     |
|-------|---------------|-----|-------|---------------------|
| 0 歳児  | 6 名(入園予約 5 名) | 保育士 | 3 名   | (うち保育士パート 1 名)      |
| 1 歳児  | 1 9 名         | 保育士 | 5 名   | (うち保育士パート 2 名)      |
| 2 歳児  | 2 5 名         | 保育士 | 4 名   | (うち保育士パート 1 名)      |
| 3 歳児  | 2 8 名         | 保育士 | 3 名   | (うち障がい加配保育士パート 1 名) |
| 4 歳児  | 2 7 名         | 保育士 | 2 名   |                     |
| 5 歳児  | 2 8 名         | 保育士 | 1 名   |                     |
| 合計園児数 | 1 3 3 名       | 保育士 | 1 8 名 |                     |

主任保育士 1 名

副主任保育士 1 名

フリー保育士 1 名（うちパート保育士 1 名）

延長休日保育担当保育士 2 名（うちパート保育士 1 名）

### ⑤保育内容

- 保育の手順は作成したチェックリストを基に、職員によって手順や方法に差異のないよう丁寧に保育を実践していきます。
- 乳児期からの愛着関係がその後の成長発達の基盤となることを保育士が常に意識し、子どもからの発信に応答的に関わり信頼関係を築いていきます。
- 子どもが自分で考え行動していけるよう、不必要な言葉がけや援助をすることなく、待つ姿勢を

大切にします。

- 遊びや体験の中で、子どもの面白そう、やってみたいという姿をとらえ、子どもの興味関心に合わせた保育準備や環境づくりを行います。
- 子どもの体力の低下がみられるため、毎日の朝の意味ある運動、体育あそび、リトミックなどの内容を見直し、運動能力や体力の向上を目指します。また、運動遊具を使った遊びでは、安全に配慮しながら多様な身のこなしを引き出し、身体能力を高めます。
- 全国人権擁護委員連合会のリーフレット「種をまこう」や人権に関する絵本を通して子どもたちに分かりやすく伝えるとともに、人権を尊重した保育を行います。また、「ソーシャルスキルトレーニング絵カード」を使い集団の中のルールや対人理解を伝えていきます。
- 食材に触れる、におう、味わうなど、五感を働かせた食育体験を通して、好きなものをおいしく食べ、苦手なものにも挑戦するなど、食べることに興味を持てる子どもに育てます。
- 今年度も引き続き、プログラムを通じて SDG s について学び、地球環境や社会問題について子どもたちと一緒に考えていきます。

#### ⑥家庭との連携

- 家庭訪問（新入園児のみ）、個別懇談・就学前個別懇談（年1回）、クラス懇談（年2回）、参観日・保育参加（年1回）を通して保育に対する理解を深めていきます。
- 保護者へのお知らせ配信に対しては、写真や動画を活用しわかりやすく伝える工夫を行います。
- 保護者のニーズを把握するため、web 上でのアンケートを活用します。
- 配慮を要する子どもについては、保健所や発達支援事業所などの専門機関と連携し、発達や関わりについて保護者に丁寧に説明していきます。
- 支援の必要な家庭には、関係機関との連携を図りながら、育児支援を行っていきます。
- 新入園児を対象に入園前にプレ保育を実施し、保育園の生活を親子で体験してもらい、安心して入園を迎えられるようにします。
- 転園や卒園児とその保護者には、園長、主任が相談窓口となり、継続して支援できるようにします。卒園児を迎えての交流会も年間4回程度開催します。
- 保育安全計画の取り組みについて、クラス懇談会や保護者連絡アプリを活用し保護者に周知します。

#### ⑦人材育成

- 新規採用職員や経験の浅い職員に対して、「一日の保育の流れ」に沿った保育を主任・副主任が指導します。保育の手順や意味合いについては、チェックリストを活用し、保育の方法や子どもへのかかわり方が統一できるよう取り組みます。
- 研修計画に基づき、キャリアアップ研修や専門分野研修に参加し、専門知識を深め技術の向上に努めます。
- 勉強会を計画的に行い、保育内容や子どもの発達についての理解を深めていきます。
- 子どもの発達や興味・関心をとらえた保育環境づくりについて、講師による勉強会を実施していきます。
- 園外研修（松山市保育会、愛媛県社会福祉協議会、全国保育協会、日本保育協会等）に参加し、

保育の質の向上に努めます。

- 園内研修（言葉の学習、アレルギー対応、救急救命、SIDS、感染症対応、嘔吐処理、不審者訓練、体育指導、人権擁護チェックリスト、不適切保育について、安全な遊具の使い方について、子ども理解について、マルトリなど）を実施します。

#### ⑧地域の実態に対応した事業

##### ●地域子育て支援拠点事業

- ・子育て支援センターは、育児に対する悩みや不安を抱える保護者に対し、育児相談、育児の情報提供を行います。園内の専門職員が育児の助言を行うとともに、保護者のニーズに応じて育児講座も行います。
- ・父親が育児休業を取得する家庭が増えてきたことを踏まえ、父親参加のイベントや育児講座を開催していきます。
- ・園庭開放での園児との交流、保育園体験（給食試食会）などを通して、保育園のことを知ってもらう機会を増やします。

##### ●地域とのかかわり

- ・地域の幼稚園との3園交流を年に3回行います。
- ・中学校の職場体験や、保育士養成校の実習生、高校生のインターンシップなどを受け入れます。
- ・近隣の高齢者施設とお互いの行事に参加し交流を深めます。
- ・地域の文化祭、マラソン大会、商店街の盆踊りや祭りへの参加などを積極的行います。
- ・近隣の方の協力のもと、田植え体験、稲刈り体験を行います。
- ・地域が行う防災訓練に積極的に参加します。
- ・小野交番連絡協議会に年3回参加し、地域の現状把握に努めます。

##### ●小学校との連携・接続について

- ・保幼小連絡協議会での意見交換や園児の引継ぎを行います。
- ・小学校教諭と連携を図り、作成した架け橋プログラムの内容を計画にそって進めていきます。

#### ⑨苦情解決

- 第三者委員（主任児童委員2名）を設置します。苦情解決の仕組みについては、園内での掲示やガイドブックに記載し保護者に周知します。苦情解決の責任者を園長、苦情受付担当者は主任保育士とし、苦情には改善案を保護者に伝え掲示します。協議中の議案は経過報告をします。
- 意見箱を玄関に設置し、保護者が意見を出しやすいように配慮します。

#### ⑩リスクマネジメント

- 安全計画に基づいて、研修や訓練を実施します。  
（消防署との総合訓練、避難訓練・消火訓練、重大事故対応訓練、ハザードマップを使用した勉強会）
- 日頃より、災害に関する情報や対応をアプリ配信、クラス懇談会、ガイドブック等を通して保護者に知らせ、災害時に備えます。

- 大規模災害を想定した引き渡し訓練を行うなど、日頃より保護者と連携して災害時の対応に努めます。
- 業務事業計画（BCP）について内容を職員と共有し、理解を深めます。また、有事の際に迅速かつ適切な対応ができるよう、模擬訓練を安全計画に基づいて行います。
- ヒヤリハット事例を分析し、職員の安全に対する意識を高め、事故防止に努めます。
- 食物アレルギーに関する研修に参加し、情報を共有します。また、食物アレルギー対応マニュアルの内容を全職員が理解し、安全な食事提供に努めます。
- 年2回、備蓄品・防災用品を確認します。また、非常持ち出し袋の点検・緊急連絡票の確認を月1回行います。期限や不足品などを把握し、常時補充を行い、非常時に備えます。

#### ⑪休日保育

- 日曜、祝日の休日に就労のため保育が必要な子どもを対象に10名程度受け入れます。  
他園利用の子どもの申請が増えてきているため、安全に留意しお預かりします。  
利用時間：日曜・祝日 8：00～18：00  
利用年齢：1歳3か月以上  
職員体制 職員2名で対応

#### ⑫その他

- ・行政と協議の上、令和7年度に壁紙修繕
- ・エアコン清掃（350,000円）